

「つかさのまち」という場所 — 市民に愛され、市民協働の拠点となる庁舎 —

社会環境が急速に変化する現代、新しいまちづくりが求められています。
 そのためには、市民と行政が一体となって、まちづくりに取り組む新たな拠点の創出が重要です。
 岐阜市民が「この地に住んでよかった」と実感できるように、新庁舎は周辺の自然や都市環境と調和を図るとともに、ぎふメディアコスモスと一体となって、「つかさのまち」を形成し、市民と行政の協働の拠点を目指します。



■ つかさの森

県都の魅力を演出する緑あふれる核として、「つかさのまち」を彩る緑やせせらぎにより、「つかさの森」をつくります。

市民が気軽に訪れ、岐阜の自然を感じられるあらたなまちづくりの拠点を創出します。



■ みんなの広場 カオカオ

新庁舎とぎふメディアコスモスが連携して、にぎわいの相乗効果を生み出します。

みんなの広場 カオカオを拡充し、広場に面して市民交流スペースやレストランを設けるとともに、防災拠点として活用します。



■ みどりの丘

「つかさのまち」を見渡すみどりの丘。周辺のまちなみや金華山と連続する景観をつくります。岐阜や金華山の植生にちなんだ植栽を配し、子供たちの学び場や、市民の交流の場となります。



■ 「岐阜らしさ」を活かした新庁舎

「岐阜らしさ」を喚起させる「長良川」「金華山」「岐阜の伝統文化の繊細さ」の3つのアイデンティティを新庁舎のさまざまなデザインに取り入れ、岐阜のまちなみと調和し、歴史を感じさせる新庁舎をつくります。

